



2025年3月期決算説明資料

株式会社QDレーザ
2025年5月

2025年3月期決算説明に際して

株式会社QDレーザの2025年3月期（2024年4月～2025年3月）決算説明資料をお届けします。

当期通期実績は、レーザデバイス事業の堅調が継続し、売上高が1,308百万円（前期比5%増）、営業利益△445百万円（前期比158百万円改善）となり、昨年11月公表の中期経営計画における想定数値及び本年2月に公表申し上げた上方修正時の見通しのいずれも上回ることができました。

2026年3月期は、レーザデバイス事業の成長継続（売上高前期比11%増）を軸として売上高1,387百万円、営業利益△445百万円を見込みます。円高要因等もあってレーザデバイス事業において固めの数値とすることを目論みましたが、概ね中期経営計画に沿ったものとなっています。視覚情報デバイス事業における他社との連携実現にも傾注し、2027年3月期の黒字化達成に向けた土台を固めることを目指してまいります。

また本日、大久保潔COOが2025年6月24日開催予定の定時株主総会日において代表取締役社長に就任する人事の内定を発表いたしました。大久保新社長には、黒字化を通過点としてさらに当社事業の厚みを増し、当社の持つポテンシャルを形にして大きな飛躍につなげていってもらうことを期待します。私の社長在任は短期間でしたが、一回り若い世代の新社長と緊密に連携し、業務執行取締役として貢献を続けて参ります。

新社長の率いるQDレーザに対する引き続きのご支援をお願い申し上げます。

株式会社QDレーザ代表取締役社長
長尾 収

Mission

半導体レーザの力で、 人類の「できる」を拡張する。

Contents

01 2025年3月期業績ハイライト

02 事業の説明

03 ESGの取組

04 用語集

当社は、かつて実現は不可能と言われた、
光通信用量子ドットレーザ (=Quantum Dot LASER)
の量産化に世界で初めて成功しました。

できないことをできるようにするのはもちろん、
今はまだない新たな「できる」をも創出していく。

レーザ技術を用いて、バイオメディカル分野、超精密加工、情報処理の飛躍的な能力向上を実現し、また高機能な視覚情報機器の進化を実現し、人類の可能性を拡張する挑戦を続けます。

会社概要

富士通研究所からのスピンオフベンチャー

2021年2月東証マザーズ市場（現グロース市場）に上場（証券コード: 6613）

会社名 株式会社QDレーザ

設立 2006年4月24日

決算期 3月

代表者 代表取締役社長 長尾 収

従業員数 48名*1（2025年3月末時点）

所在地 本社：神奈川県川崎市川崎区南渡田町1-1

事業内容 ・半導体レーザデバイス事業

- ・通信・加工・センサ用の最先端半導体レーザの製品化
- ・シリコンフォトリソ用の量子ドットレーザの開発・製品化

・視覚情報デバイス事業

- ・世界初となる、レーザ網膜投影技術を活用した「RETISSA」を製品化
- ・ロービジョン向け機器・部品の販売

業許可等 ・第二種医療機器製造販売業

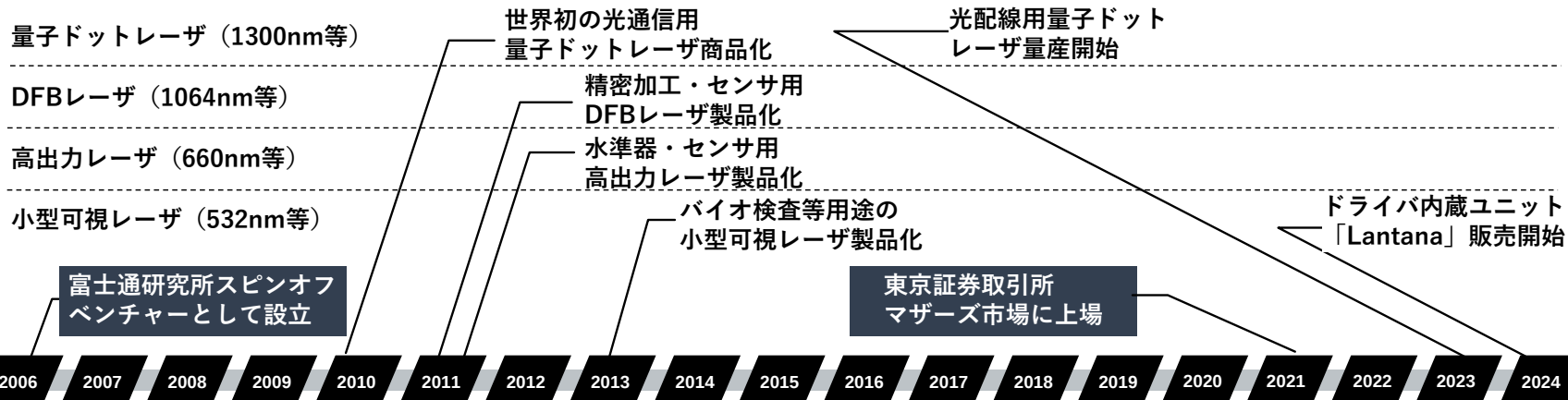
- ・医療機器製造業
- ・ISO 9001



代表取締役社長 長尾 収

製品拡大の道のり

レーザデバイス



視覚情報デバイス

ロービジョン・エイド

スマートグラス

民生用レーザ網膜投影機器
“RETISSA® DISPLAY”出荷開始 “Neoviewer” 出荷開始

レーザ網膜走査型スマートグラス
共同研究開始

01

2025年3月期
業績ハイライト

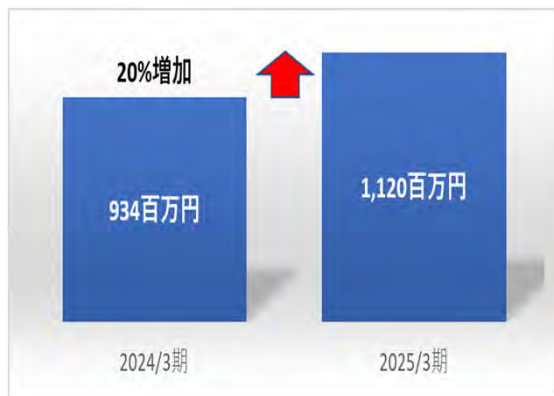
業績ハイライト

① レーザデバイス(LD)事業売上高は前期比**20%増**の**1,120百万円**、視覚情報デバイス(VID)事業売上高は前期比**40%減**の**188百万円**、全社売上高は前期比**5%増**の**1,308百万円**

LD事業売上高はDFBレーザ、小型可視レーザ及び高出力レーザが増加した一方、量子ドットレーザが減少して20%の増加。

VID事業売上高は開発受託が増加した一方、前期のRETISSA NEOVIEWER米国販売及びMEOCHECK販売がなくなったことにより機器販売が減少して40%の減少。

LD売上高



VID売上高



全社売上高



業績ハイライト

02 全社営業損失は前期比**158百万円(26%)改善**（LD事業営業利益は前期比**242%増の141百万円**）

LD事業では増員による人件費及び採用手数料、新設備稼働に伴う減価償却費など販管費が増加したものの、売上高増加に伴う売上総利益増加で販管費増加を吸収し、営業利益は前期比242%増加となる141百万円となった。

VID事業では売上高は減少したものの、前期のような棚卸評価減がなかったため売上総利益が増加し、販管費の減少と合わせて、営業損失は前期比63百万円改善の311百万円となった。

これらの結果、全社では営業損失が前期から158百万円改善となる445百万円となった。

LD営業利益



全社営業損失



03 経常損失は前期比**157百万円(26%)改善**、当期純損失は前期比**196百万円(31%)改善**

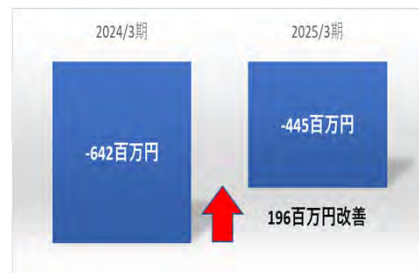
経常損失は営業損失同様、前期比157百万円の改善となる443百万円となった。

当期純損失は前期発生した固定資産除却損が当期はなかったため、経常損失の改善幅より大きい前期比196百万円の改善となる445百万円となった。

経常損失



当期純損失



業績ハイライト

前期比で売上高増加、損失改善

売上高はLD事業で前期比20%の増加、VID事業で前期比40%の減少となり、全社では前期比5%増加となった。営業利益はLD事業では前期比242%増加の141百万円、VID事業では前期比63百万円の改善となり、全社営業損失は前期比158百万円(26%)の改善となった。

全社業績サマリー

(単位：百万円)	2025/3 実績	2024/3 実績	前期比	2025/3期 公表予想 ^{*1}	予想比
売上高	1,308	1,247	+5% (+61)	1,271	+3% (+37)
(内、LD)	1,120	934	+20%	1,102	+2%
(内、VID)	188	312	△40%	169	+11%
営業利益 又は損失(△)	△445	△604	+158	△547	+101
(内、LD)	141	41	+99	107	+34
(内、VID)	△311	△375	+63	△371	+60
経常損失(△)	△443	△600	+157	△534	+91
当期純損失(△)	△445	△642	+196	△538	+92



主要製品群別売上サマリー

(単位：百万円)	2025/3期	2024/3期	前期比
DFBレーザ	526	394	+34%
小型可視レーザ	257	202	+28%
高出力レーザ	236	228	+4%
量子ドットレーザ	99	109	△9%
LD事業計	1,120	934	+20%
製品	29	188	△85%
開発受託	155	107	+44%
セルフチェックサービス ^{*2}	3	16	△76%
VID事業計	188	312	△40%
合 計	1,308	1,247	+5%

貸借対照表

資産合計は、現金及び預金の減少と固定資産の増加等により640百万円の減少、負債合計は未払金の減少等により191百万円の減少、自己資本比率は94.8%（前期末は92.1%^{*1}）となった。

貸借対照表

（百万円）	2025/3月末	2024/3月期末	前期末比
流動資産	4,554	5,762	△1,207
固定資産	950	384	+ 566
資産合計	5,505	6,146	△640
流動負債	256	444	△188
固定負債	30	34	△3
負債合計	286	478	△191
純資産合計	5,219	5,667	△448
負債純資産合計	5,505	6,146	△640

キャッシュフロー

投資活動によるCFは、LD新拠点の建設協力金（長期貸付）支出等により前期比430百万円の減少、財務活動によるCFは株式発行収入減により前期比1,845百万円の減少、現金及び現金同等物は前期末比1,082百万円の減少となった。

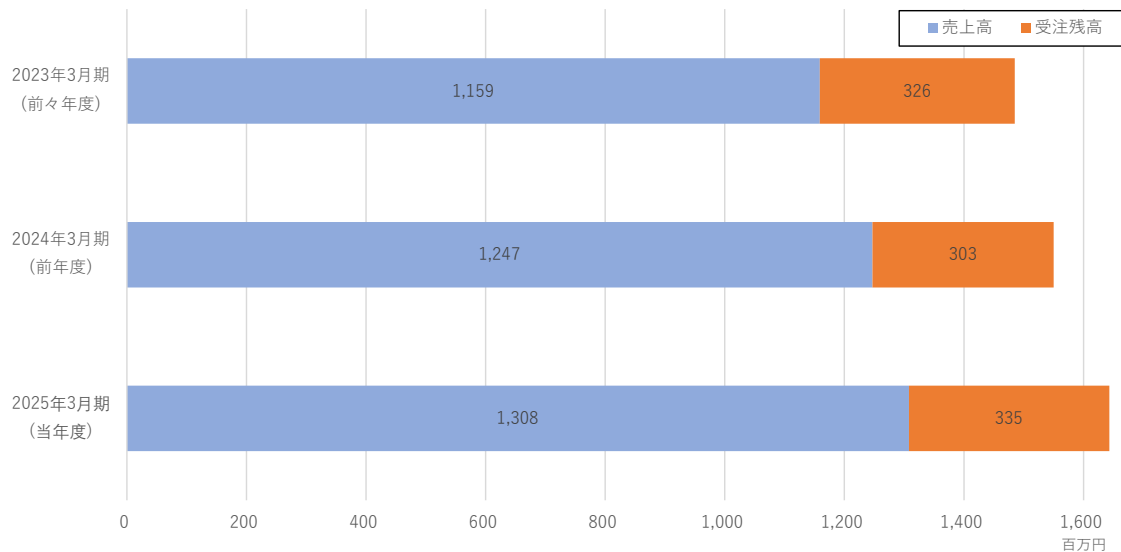
キャッシュフロー

(百万円)	2025/3期	2024/3期	前期比
営業活動によるCF	△506	△443	△63
投資活動によるCF	△568	△138	△430
財務活動によるCF	△9	1,835	△1,845
現金及び現金同等物換算差額	2	1	1
現金及び現金同等物 期末残高	3,754	4,836	△1,082

受注状況

売上高は着実に増加。2025/3期末時点の受注残高は前期比11%増の335百万円。

3ヶ年売上高と期末時点での受注残高



DFBレーザ^{*1}：売上高

2025/3期売上高は前期比34%増加となる526百万円となった。

主力の精密加工用および計測（センサ）用光源の受注好調

- **精密加工**：265百万円（51%^{*2}）
- 北米の新規および中国の既存加工装置向けレーザ等の受注好調により、前年同期比113%の売上増加
- **計測（センサーシステム）**：128百万円（24%^{*2}）
- 中国および米国のセンサ用光源の受注好調により前年同期比29%の売上増加
- **医療**：70百万円（14%^{*2}）
- 前年同期とほぼ売上同額。欧州医療機器用光源は堅調。
- **計測（半導体製造用）**：57百万円（11%^{*2}）
- 昨年度好調であった主要顧客の在庫調整のため前年同期比40%の売上減少。他方、日本の半導体ウエハプロセス関連の検査装置用光源は量産認定獲得。

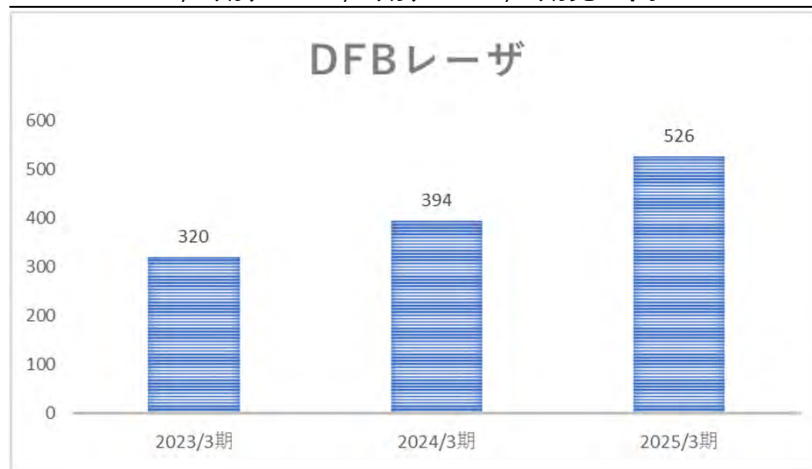
DFBレーザ

左：15ピコ秒パルス用

右：50ピコ秒／ナノ秒パルス、CW用



2023/3期、2024/3期、2025/3期売上高



小型可視レーザー：売上高

2025/3期売上高は前期比28%増加となる257百万円となった。

昨年度受注が低迷した最大顧客の需要が回復し、フォーキャスト通り順調に受注が積み上がった。

- 血液・細胞分析（フローサイトメータ、セルソータ^{*1}）： 190百万円（74%^{*2}）
- 前年同期比80%の売上増加。中国（本社米国）顧客のバイオ検査装置用光源に係る在庫調整が終わり、同社のみで前年同期比売上が81百万円超増加。
- 顕微鏡：61百万円（24%^{*2}）
- 前年同期比32%の売上減少。欧州バイオメディカル用STED顕微鏡^{*3}メーカーや顕微鏡メーカーからの受注低調（2社合計で前年同期比売上42百万円減）等が響いた。他方、新規に日本のバイオメディカル装置用光源の認定用として13百万円売上実績。
- LantanaTM^{*4}：
- 2025年3月に製品貸出開始し、6月に量産品リリースを計画。

小型可視レーザー

左：緑色, 中央：黄緑色, 右：オレンジ色

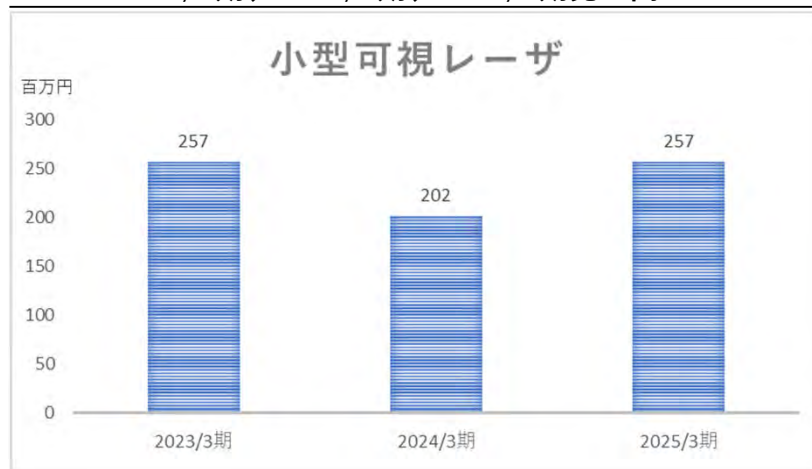


LantanaTM

左：オレンジ色, 中央：黄緑色, 右：緑色



2023/3期、2024/3期、2025/3期売上高



高出力レーザ：売上高

2025/3期売上高は前期比4%増加となる236百万円となった。

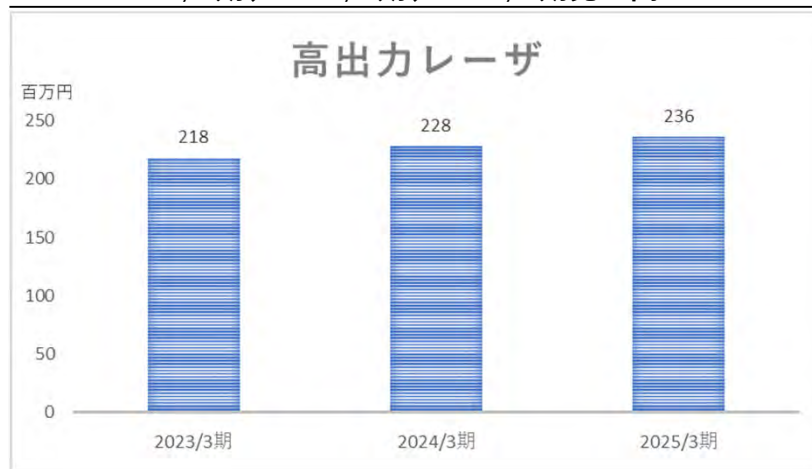
半導体工場用センサやマシンビジョンは低調であったが新規センサ用光源の量産開始等により受注微増。

- 建設・DIY用水準器、センサ：125百万円（53%^{*1}）
- 前年同期比23%の売上増加。本分類の30%を占める中国センサ・レベラー用光源がユーザーの使用波長変更により受注低調となり前年同期比9%減となったが、日本センサ用光源への新規採用や欧州センサ用光源等により売上が増加。
- 半導体工場用センサ：56百万円（24%^{*1}）
- 前年同期比5%の売上減少。パーティクルカウンタ用光源等の受注好調も、本分類売上の60%を占める日本のウエハ搬送機用センサ光源2社の受注低調（併せて前年同期比20%売上減少）。
- マシンビジョン・工場内データ通信：49百万円（21%^{*1}）
- 前年同期比18%の売上減少。本分類で最大口の北米マシンビジョン用光源は前年同期比85%売上増と好調であったが、他の顧客からの受注が低調に推移。



高出力レーザ
TOパッケージ

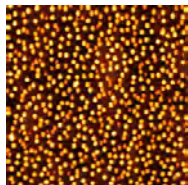
2023/3期、2024/3期、2025/3期売上高



量子ドットレーザ^{*1}：売上高

2025/3期売上高は前期比9%減少となる99百万円となった。

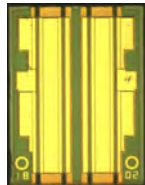
- 量子ドットレーザを組み込んだ最終製品については、当社顧客において量産化を目指した研究開発がさまざまに進捗。
- 日米欧計9社とシリコンフォトニクス用光源等の共同開発を推進中（光コネクタ・チップ間通信、LiDAR、民生用途等）。
- 当社顧客における研究開発・試作用途の量子ドットレーザ需要は、上下変動はありつつも、概ねこれまでの趨勢通り推移する見込み。
- 日米欧亜の9大学・研究機関から研究用途の量子ドットウエハの受注し出荷済。
- 光コネクタ・チップ間通信向けウエハ等の受注・出荷継続
- 当社における量産案件として受注した2023-2024年度出荷6万個については、注残1.8万個のうち2024年度に1.48万個出荷済。残り0.32万個は仕様変更対応に伴い2025年度に出荷予定。



量子ドット

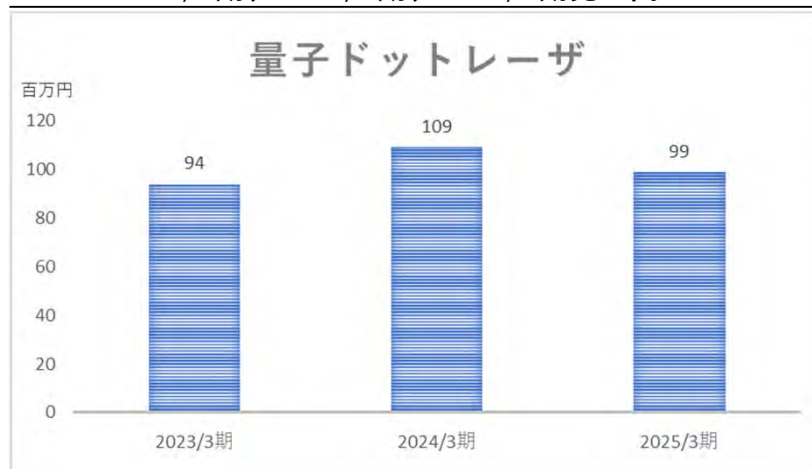


量子ドットウエハ



量子ドットレーザチップ

2023/3期、2024/3期、2025/3期売上高



視覚情報デバイス(VID)：売上高その他中期経営計画進捗

2025/3期売上高は前期比40%減少となる188百万円となった。

- **製品・サービス販売**（年間累計売上高33百万円）

中期経営計画方針に基づき、① 手持ち型視覚支援デバイスRETISSA ONHANDの拡販並びに②新規に他社開発視覚支援製品の販売および③コア部品・テクノロジー提供に集約

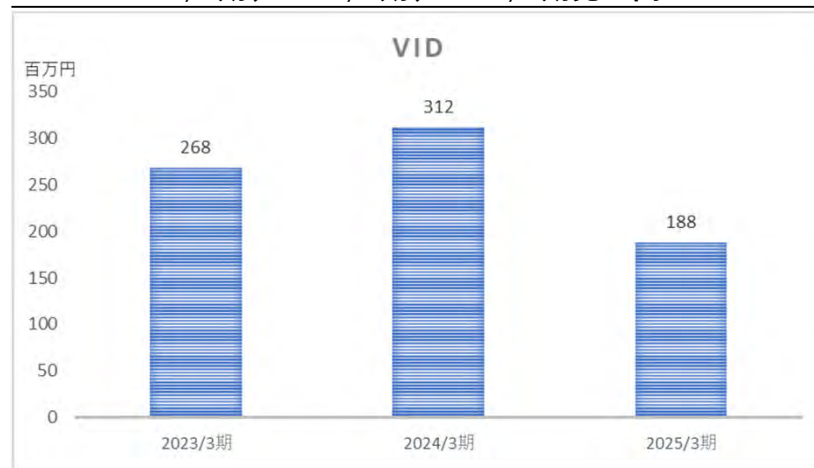
- ヘッドマウントディスプレイRETISSA Display IIは生産終了済、ソニーとの提携販売製品RETISSA NEOVIEWERは今期売上予算21百万円を達成済で追加生産見合わせ中)

- ① RETISSA ONHAND - 図書館、美術館、博物館、劇場、スポーツ観戦等公共施設に向けた普及活動を推進中。
- ② 他社開発視覚支援製品の販売スキームについて議論進行中。
- ③ テクノロジーライセンスの協議進展。

- **開発受託（NRE）**（年間累計売上高155百万円）

- 中期経営計画では、NRE案件受注は行わない基本方針ではあったが、例外的に第4四半期83百万円の案件受注・出荷済。
- **スマートグラス及ビジョンヘルスケア応用分野の共同事業化**
- 複数候補と協議推進中。

2023/3期、2024/3期、2025/3期売上高



中期経営計画達成に向けたLD事業の着実な成長とVID事業再編の取り組み

レーザデバイス事業

営業黒字

11期 連続

営業利益66百万円
売上高12.4億円(前期比+11%)
新製品開発費増、償却費増^{*1}

量産認定製品拡大

107製品⇒**116**製品

バイオ用小型可視レーザ顧客拡大
DFBレーザアプリケーション拡大
新製品開発と商品化

ソリューション製品上市^{*2}

世界最小クラスの
小型可視レーザユニット
Lantana™ 量産開始

視覚情報デバイス事業^{*3}

売上高 140百万円
(前期比 △25%)
営業損失 197百万円
(前期比 114百万円改善)

光学ユニット・部品
ビジネス立上げ

網膜投影機器製品で培った「レーザ+光学系」
を産業用途へ展開し部品ビジネスの立上げ

次年度以降を見据えた事業の再編成^{*4}

企業連携の強化

他社提携による共同事業化の検討
技術ライセンス、他社品網膜投影機器販売

2026年3月期業績予想

LD事業は着実に成長の一方、VID事業は2027年3月期黒字化を目指した事業再編成を図っており、全社売上は前期比6%増加。

通期業績予想

(単位：百万円)	2026/3 通期予想	2025/3 通期実績	前期比
売上高	1,387	1,308	+6% (+78)
(内、LD)	1,247	1,120	+11%
(内、VID)	140	188	△25%
営業利益 又は損失(△)	△445	△445	+0
(内、LD)	66	141	△74
(内、VID)	△197	△311	+114
経常損失(△)	△435	△443	+8
当期純損失(△)	△445	△445	+0

【LD事業】

- ・売上高はDFBレーザ、量子ドットレーザが伸長し、前期比+11%の1,247百万円。
- ・高度人材の確保、新設備稼働や拠点移転に伴う償却費増加、開発項目の増加、設備修繕費増加等により販管費は前期比+49%の420百万円を見込む。
- ・営業利益は円高による売上総利益率悪化や上記販管費増加により前期比△53%の66百万円。

【VID事業】

- ・2026/3期は2027/3期をターゲットとした事業再編成の期間と位置づけ、売上高は前期比△25%の140百万円。
- ・研究委託や宣伝広告の見直し等により販管費は前期比△21%の262百万円を見込む。
- ・営業損失は前期比114百万円改善の△197百万円。

【全社】

- ・売上高は前期比6%増加の1,387百万円。
- ・営業損失は前期比横ばいの△445百万円。
- ・経常損失は前期比8百万円の改善、当期純損失は前期比横ばい。

2027年3月期目標（2024年11月公表中期経営計画）

レーザデバイス事業

営業黒字

12期 連続

営業利益3.4億円(粗利益率45%に改善)
認定製品数、新規顧客増加
価格適正化、外注費削減、歩留り向上

グローバルニッチ新製品

売上高 **2億** 円超

2026年3月期新製品が寄与^{*1}
・小型可視レーザ「Lantana™」/新波長
・半導体検査/精密加工/センシング用DFBレーザ

生産拠点の移転

増産体制構築

2026年春 戸塚新拠点に移転
設備購入、クリーンルーム・製品検査
エリア拡張により生産能力を増強

視覚情報デバイス事業

2027年3月期 黒字化

営業利益 **0.2** 百万円

ロービジョンエイド事業、他社製品販売、光学ユニットおよび部品ビジネスによりユーザーのニーズに応え、2027/3期の黒字化を目指す。

光学・部品ビジネス拡大

網膜投影機器製品で培った「レーザ+光学系」技術を産業用途へ展開し部品ビジネスの拡大を図る。

自社技術や営業ノウハウ活用

企業連携の強化

光学ライセンスや他社品網膜投影機器販売の拡大を図る。

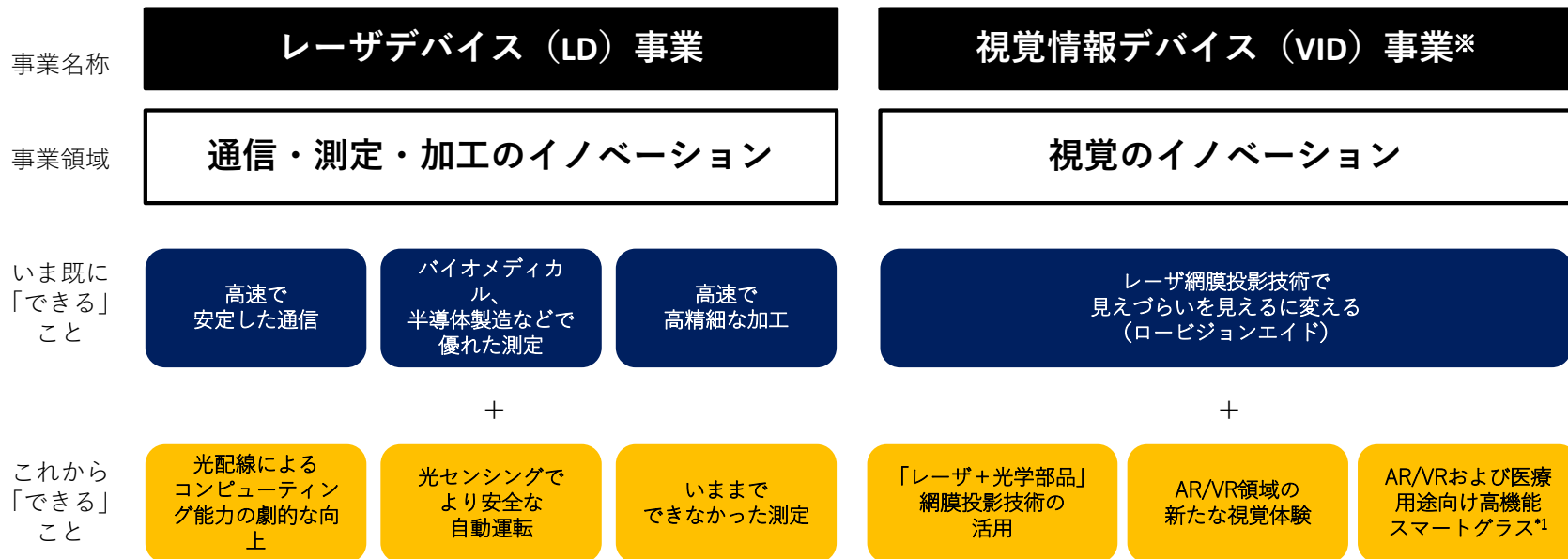
02

Q Dレーザの事業

人類の「できる」を拡張する2つの事業

半導体レーザーの力で「できる」を増やし、人類全体の幸福度向上に貢献する。

※事業領域の拡大に伴いレーザーアイウェア（LEW）事業から名称変更



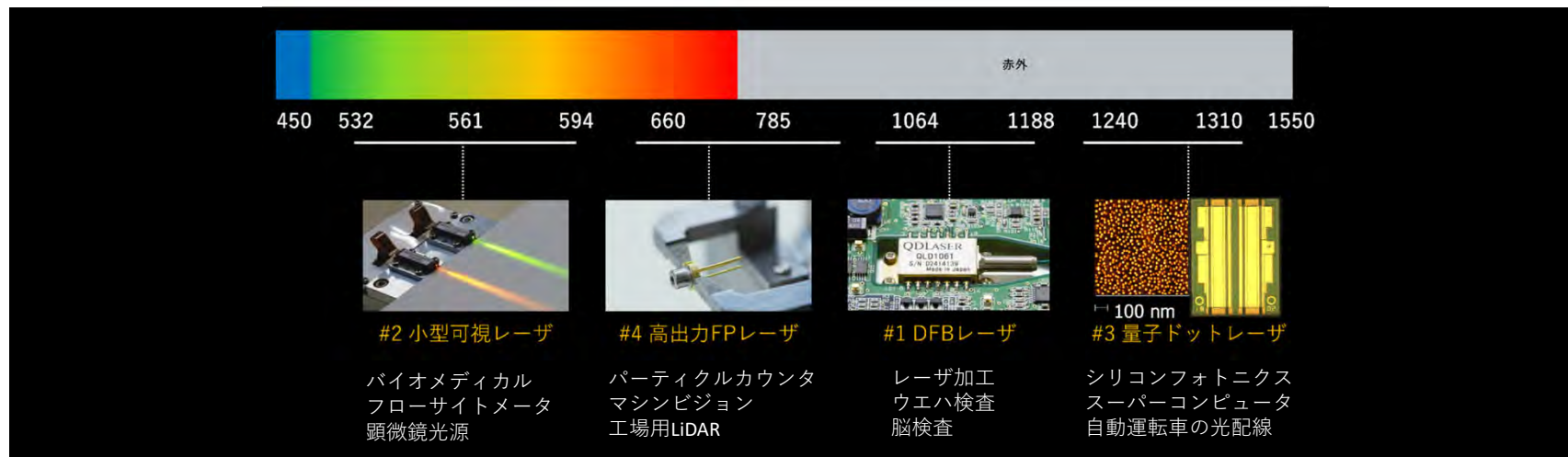
QDレーザの強み：コアテクノロジー

材料、設計、制御に渡って 唯一領域を多数保有する最先端の半導体レーザ技術



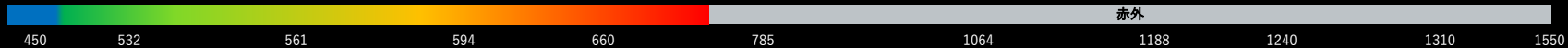
QDレーザの強み：競合優位性

あらゆる「色」の半導体レーザの開発から量産までをセミファブレスで実現。^{*1}



様々な領域のイノベーションに半導体レーザは必須。しかし、用途ごとに対応するレーザの波長＝色は異なる。そこでQDレーザは、特定のレーザのみでなく、あらゆる色のレーザを開発から量産までセミファブレスで実現する仕組みを構築。さらに、超短パルスやシリコンフォトリソにも対応し、「半導体レーザのセミファブレス総合メーカー」としての位置付けを確立。

レーザデバイス（LD）事業部：主要レーザデバイス製品一覧



小型可視レーザ



高出力FPレーザ



DFBレーザ



量子ドットレーザ

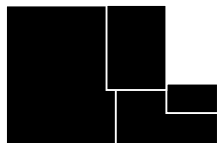
波長	532, 561, 594 nm	640-905nm	1030, 1053, 1064, 1080, 1120, 1180nm 1020-1120nmは1nmステップでラインナップ	1100-1330nm
特性	- 超小型・低消費電力・安定性・短パルス発生・高速変調・単色性等 - 世界初の電流注入型緑・黄緑・橙半導体レーザ	- 高出力ファブリペローレーザ - アプリケーションに応じた製品・ソリューションを提供 - 各種波長への対応。少量・カスタム生産へ対応	- 波長の緻密な制御、連続動作・ナノ秒・ピコ秒の安定動作 - 既存の固体レーザと比べて、ビーム品質の高さ・小型軽量・電気-光変換効率の高さ・長寿命等の特性 - 顧客の様々な要望に対応する豊富な製品ラインナップ	- 半導体レーザの活性層（発光部）に量子ドット構造を採用 - 既存の半導体レーザ対比、温度安定性、高温耐性、低雑音性に優れる
使途	計測 医療 加工 通信 Si フォトリソ - バイオセンサー、蛍光顕微鏡など - 特にフローサイトメーター用	計測 医療 加工 通信 Si フォトリソ マシンビジョン、センサ、水準器、短距離LiDAR、3D計測、パーティクルカウンタ	計測 医療 加工 通信 Si フォトリソ - 精密加工用ファイバレーザの種光 - 半導体検査装置用 - 航空LiDAR等、ガスセンシング等の計測用光源用	計測 医療 加工 通信 Si フォトリソ - シリコンフォトリソ用途 - 光コネクタ・チップ間通信 - セキュリティカメラ、産業用ドローン、自動運転用LiDAR

レーザデバイス（LD）事業部：QDレーザ製品の採用事例

QDレーザの製品は様々な産業を支える装置に組み込まれ、経済活動に寄与。
社会が注目する各種製造業・事業の発展に寄与。

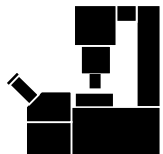
バイオメディカル

検査・分析装置の光源として
創薬など医学研究に貢献



フローサイトメータ
細胞を数える分析装置
その光源に採用

光源サイズ
 $\frac{1}{3}$



STED顕微鏡

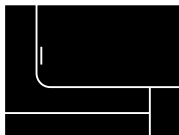
従来の顕微鏡よりもはるかに
小さなものを観察できる顕微鏡
その光源に採用

空間分解能
50nm

光源サイズ
 $\frac{1}{3}$

精密加工

精密電子機器などの筐体や基板の
加工に用いられ小型・高機能化に貢献



超短パルスレーザ加工機

熱の影響を抑えて微細な加工が可能
その光源に採用

メンテナンス頻度
 $\frac{1}{3}$

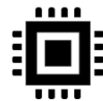
表面粗さ
 $\frac{1}{4}$

スループット
2倍^{*1}

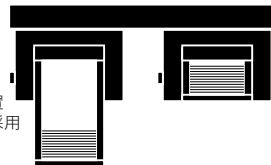
QDレーザの製品を採用したことで
小型な装置
高精度な装置
高性能な装置
が「できる」ように

半導体製造

製造プロセスの各種装置に
組み込まれ半導体産業全体に貢献



半導体ウェハ搬送機

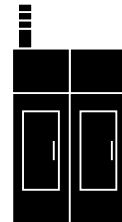


板状の半導体を運ぶ装置
衝突防止のセンサーに採用

半導体検査装置

半導体の品質を確保する検査装置
異常を検出するセンサーに採用

パルス幅
(分解能)
15ps

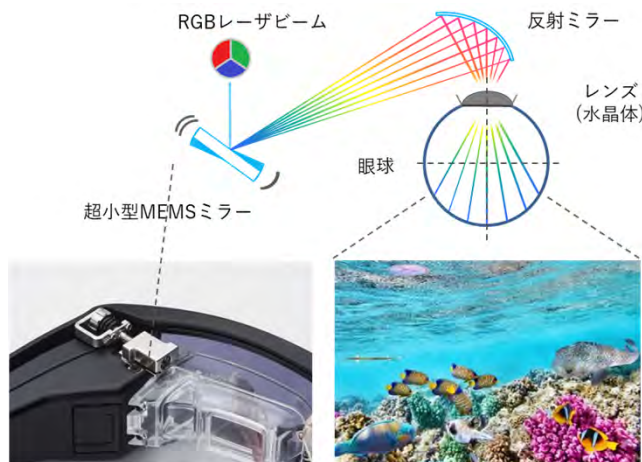


視覚情報デバイス（VID）事業部：事業概要

レーザで網膜に直接映像を投影する技術・製品によって、人類の視覚にイノベーションを起こす。

世界で先行するレーザ網膜投影技術

VISIRIUM TECHNOLOGY®



できるを拡張する3つの事業領域

③見えるの世界を拡張する Augmented Vision	
AR/VRおよび医療用途向け高機能スマートグラスで見えるの世界の拡張が”できる” ^{*1}	
②見えるの健康寿命を延ばす Vision Health Care	
眼のセルフチェックサービスで自身の眼の状態を把握できる	
①見えづらいを見えるに変える Low Vision Aid	
見えづらさがあっても やりたいことが”できる”	
	

03

ESGの取組

Sustainabilityに直結する事業展開

半導体レーザーの力で「できる」を増やし、人類全体の幸福度向上に貢献する。

【レーザーデバイス（LD）事業】

レーザー光源による高度なセンシング

レーザー光源による
新しい検査方法

データ活用による
創薬などへの貢献

高度な自動運転
での事故撲滅



2024 ————— to —————> 2030

【視覚情報デバイス（VID）事業】

レーザー網膜投影技術

MEOCHECKによるセ
ルフチェック

ロービジョンエイド
の社会実装拡大

視覚に関わる
あらゆる不便の解消



2024 ————— to —————> 2030

医療検査・医学研究への貢献。予防医療の発展による健康寿命の延伸。そしてインクルーシブ社会の実現。

QDレーザーが有する技術と事業の拡大が、より幸福な社会の実現に直結する。

04

用語集

用語集

半導体レーザー	半導体に電流を流してレーザー発振させる長さ1mm程度の小型素子のこと。固体レーザー、ガスレーザーと比較して、超小型、数10GHzに達する高速変調特性、数10%の高い電力光変換効率、波長の制御性等の優れた性質を有している。1980年代に光通信、CD/DVDなどの光記録用の光源として普及した。
量子ドットレーザー	量子ドットレーザー(Quantum Dot Laser：QDL)は、活性層に半導体のナノサイズの微結晶である量子ドット構造を採用した半導体レーザーのこと。既存の半導体レーザーと比較して温度安定性、高温耐性、低雑音性に優れるという特徴がある。
DFBレーザー	分布帰還型（Distributed Feedback：DFB）レーザーのことで、半導体レーザー内部に回折格子を設けて単一波長でレーザー発振することを可能としたレーザー。ファイバレーザーの種光のように狭い波長域に光出力を集中させる必要がある用途に適する。
シリコンフォトリクス	信号演算とメモリ機能を有するシリコン電子回路に光回路を混載する技術。電子回路システム処理能力の従来の限界を打破し（100倍の処理速度と低電力化を実現）、LSIチップ間の大容量伝送（10Tb/s）を可能とする。
VISIRIUM テクノロジー	光の三原色である赤・緑・青のレーザーを使って自在に色を作り出し、精密な光学系によって網膜に直接画像を投影する技術。
回折格子	レーザー内部に周期的な凹凸を形成することで、半導体レーザーの波長を自由かつ精密に制御する技術。
超短パルス	1つのパルスの幅（時間幅）が非常に短いレーザーのこと。熱影響による形状不整を防止することができ、微細加工等に用いられる。
小型可視レーザー	当社独自の半導体レーザーと波長変換素子を組合せて可視光（緑・黄緑・橙色）を発生させる小型モジュール。
網膜投影	網膜上に映像を投影すること。
フローサイトメータ	細胞の分析装置のこと。細胞の浮遊液や懸濁液を細管に通してレーザー光を照射し、蛍光や散乱光の測定によって細胞数とサイズの計測を短時間で多量に行う。分子生物学、病理学、免疫学、植物生物学、海洋生物学など各種分野にて応用されている。
LiDAR	LiDAR（Light Detection and Ranging）は、対象物にレーザー光を照射し、その反射光を光センサでとらえて距離を測定する技術。今後、自動車の自動運転分野への活用が期待されている。

本資料の取扱いに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます
- これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正を行う義務を負うものではありません